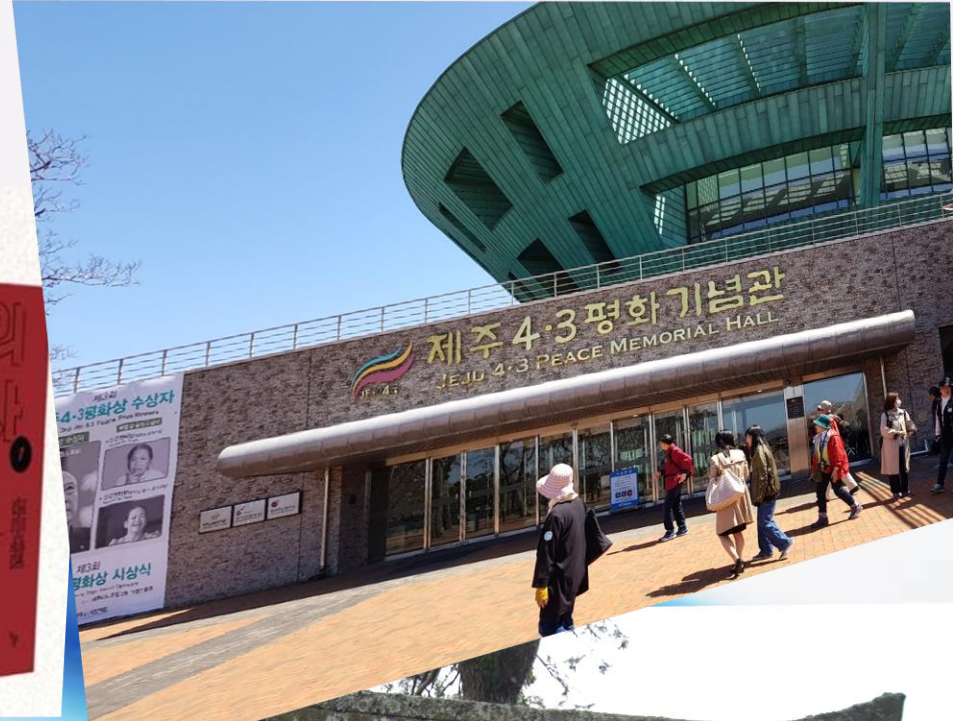


「歴史大衆化」について一緒に考えてみましょう



세계의 최신 연구 성과를 토대로
전문연구자 70여 명이 집필한
시민을 위한 한국사 통사

자신의 눈으로 역사를 판단하고 싶은
시민의 서가에 꼭 있어야 할
한국사 통사



世宗大学
韓 成敏

1. 問題意識

- ▶ 時代の変化
- ▶ ニューメディア、疑似歴史学
- ▶ 大衆領域の「歴史消費」

歴史学の危機

- ▶ 歴史学者による「歴史」独占の終焉
- ▶ 変わらない歴史学
- ▶ 変わらない歴史学者

歴史学者の危機

- ▶ 史学科の存続と卒業生の就職問題
- ▶ 短期的対応

現実的な問題

歴史学・歴史学者、「このままでいいのか」の根本的な苦悩必要

歴史学の 危機

▶ 時代の変化

- , 冷戦の解体、社会の民主化進展 → 歴史学の社会的役割縮小
- , 歴史学をはじめ、人文学の方向性喪失 → 社会的注目度下落

▶ ニューメディアの登場と疑似歴史学

- , 盲目的な愛国主義・民主主義強調 → センセーショナルな歴史解釈を流布
- , 特定アルゴリズムのYouTubeなどと結合 → 確証的で偏った歴史認識強化
- , 歴史学界の対応は遅々、微々

▶ 大衆領域において「歴史消費」活発

- , 平均寿命延長、余暇時間拡大 → 社会的に歴史コンテンツの需要増加
- , 様々な人文学関連のプログラム増加 → プログラムの質的レベル不足
- , 歴史コンテンツの商業化 → 事実に関心 X、収益性で民族主義・愛国主義感情を刺激

□ 歴史に対する歴史学者の独占時代終焉

- ◆ 従来の歴史学者 - 歴史知識、解釈、史料へのアクセスに対する機会を独占
- ◆ 史料の翻訳、デジタル化、DB化 → ネット利用で大衆の史料へのアクセス性増大
→ 歴史学者に依存せず、大衆自ら史料にアクセス、歴史解釈可能
- ◆ 歴史学者の学問的独占消滅

□ 変わらない歴史学、歴史学者

- 現在の歴史学者の姿は100年前とあまり変わらない
- 史料分析、論文及び著書執筆、講義
→ その他、大衆・社会に対する新しいアプローチ方法に対する苦悩微々
- 歴史学の研究成果と大衆との溝が拡大

- ▶ 全般的に人口減少、歴史学の社会的役割縮小
→ 史学科の存続、卒業生の就職など、現実的な問題登場

□ 史学科の存続、卒業生の就職問題

- 大学において歴史科目縮小
- 学科定員維持厳しい
- 学科統廃合の優先的対象化
- 卒業生就職の困難増大

□ 歴史関連学科の短期的対応

- 一部の史学科は学科名変更を試み
- 根本的なカリキュラムの変更 X
- 危機の加速化、少しの遅延に過ぎず

史学科及び学問後続世代消滅の懸念

◇ 「『歴史大衆化』表現」の問題

- ❖ 韓國的脈略で使っていた「歴史大衆化」用語の使用 → 批判が多い
- ❖ 「歴史大衆化」の意味 → 「大衆が読みやすく書いた歴史、大衆に興味を持たせる歴史に転換」を意味
- ❖ 一種の大衆啓蒙に近い概念
→ 「大衆の無知」、「歴史認識と歴史叙述に対する歴史学者の独占的権威が前提」

◇ 一つの対案として「Public History」

- ❖ 発表者が提起した「歴史大衆化」は、実際は「Public History」に近い
→ 韓国では「公共歴史」、日本では「パブリック ヒストリー」、中国では「公衆史学」と翻訳
- ❖ 「Public History」の概念及び主な内容は国ごとにかかなり異なる → 主な内容省略
- ❖ 歴史学は、自らの存在意義証明の時期 → 歴史学はどのように対応すべきか?